



3月から4月にかけてコロナ禍の中でも、桜の花は美しく咲き、私たちの目を楽しませてくれました。これからもいろいろな春の花たちが私たちの目を楽しませてくれることでしょう。家の中ばかりでなく、感染予防対策をしっかりしながら綺麗な花を見て、美味しい空気をおなかいっぱい吸い込みましょう。体中に生きる喜びが湧いてきますよ。



素直な心

ある本に次のようなことが書いてありました。

・・・私は、当たり前のことの中でも、特にあいさつ・掃除・素直の3つが大事だと思っています。この3つの言葉を聞いて「なーんだ、そんなことか」と思った人もいると思います。でも、実際自分の行動を振り返ってみてください。

「いつでも誰に対しても、本物のあいさつができていますか？」

「誰も見ていなくても、隅々までトイレ掃除ができますか？」

「他人の考えを受け入れて、素直に聞くことができますか？」

意外とできないんですよ、みんな。でも、だからこそ、この3つができている人はいい仕事ができる人になれると思っています。・・・

いかがでしょうか？「あいさつ・掃除・素直」の3つができる人は“いい仕事ができる人”とありますが、“幸せな人生を送ることができる人”と言い換えてもいいでしょう。そのような子どもに育てることは親としての責任です。

これまで、「あいさつ」（第8号）や「掃除」（第59号）ができる子に育てましょう、と提案しました。読んでみてください。（これまでの「青少年育成センターだより」は防府市のホームページに載せています）

今号では、3つ目の「素直な心」をもつことの大切さについて考えてみたいと思います。経営の神さまといわれていた松下幸之助さんの言葉を紹介します。

「素直な心というものは、だれに対しても何事に対しても謙虚に耳を傾ける心である」と言っておられます。厳しい経営の荒波を生きてこられた人の言葉には重みがありますね。

今は、グローバル社会となり、外国の人に対しても、自分の意志・意見を伝えることができるコミュニケーション能力の大切さが言われています。学校においても、子どもたちのコミュニケーション能力を高める様々な取組がされているところです。

私は、コミュニケーション能力とは「自分の意志・意見を相手に伝える力」だけでなく、「人の話を素直に聞く力」の両方の力のことをいうのだと思っています。自分の主張だけして他人の言うことを聞かない、そのようなわがままな子どもに育ててはいけません。本当に成長していく人は、人の話を素直な心をもって聞き、自分自身を見つめることができる人です。

「愚者は賢者に学ばず、賢者は愚者にも学ぶ」という言葉があります。本当に賢い人は、愚かな人が言ったその一言にも、学ぶことがあると言っています。このように、素直な人はいろいろな人から学ぶことができるのです。

素直な心の大切さについて子どもと話してみませんか。